

竹富島ビジターセンターの天井改修工事に伴う 休館について（お知らせ）

西表石垣国立公園竹富島ビジターセンター「竹富島ゆがふ館」は、天井改修工事のため二〇二三年一月五日（木）から二〇二三年三月二〇日（月）まで臨時休館しますのでお知らせします。この期間、利用者の受け入れができなくなりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※展示等のリニューアルは行いません。

● 天井改修工事について

木造の天井の老朽化に伴い、腐朽が確認されたことから、天井及び壁面の防腐処理及び塗装等を実施します。また、軒柱の腐食も確認されたことから、軒柱の修繕工事を併せて実施します。

● 休館中の問い合わせ先について

休館中も運営委託先であるNPOたきどうんの職員が在席します。電話やメールの対応は行いますので、二〇二三年三月二〇日（火）以降のご予約や、お問い合わせについては竹富島ゆがふ館までご連絡ください。

● 竹富島ゆがふ館に関する問い合わせ先

竹富島ビジターセンター「竹富島ゆがふ館」

TEL：0980-85-2488 E-mail：info@takidhun.org

● 工事に関する問い合わせ先

環境省沖縄奄美自然環境事務所 自然環境整備課

TEL：098-836-6400



彌勒 シーザブドゥイ （2022年10月 種子取祭）

ゆがふ館だより

ゆがふ館よりお知らせ

竹富島ビジターセンター
竹富島ゆがふ館



倉橋正 写真展

竹富島「本土復帰の日」

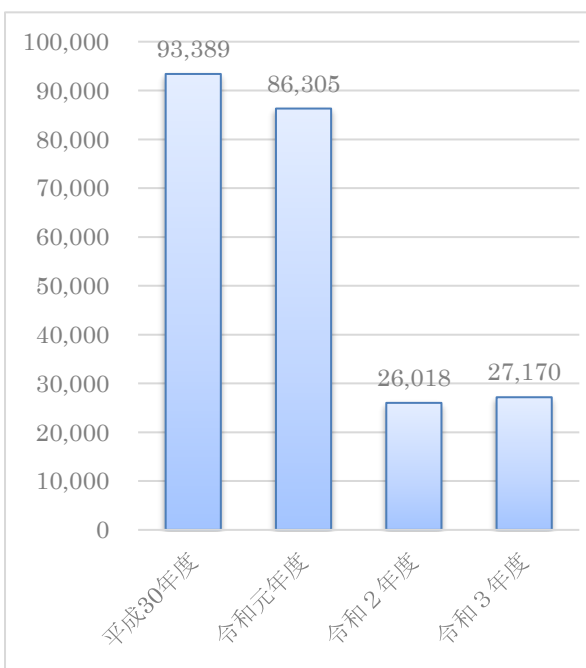
2022.11.07（月）12.31（土） 08:00～17:00

入場無料

主催：竹富島ビジターセンター運営協議会
後援：環境省沖縄奄美自然環境事務所、NPO たきどうん
協力：竹富町教育委員会

今年（2022）は、沖縄が日本国に復帰して50年。竹富島が国立公園に指定されて50周年の節目の年。そこで、今回は倉橋正氏による写真展「竹富島—本土復帰の日—」を開催いたします。ご来館の折には、ぜひともゆんたくコーナーを覗いてみてください。70余点もの写真が、1972年5月15日の竹富島にタイムスリップさせてくれるでしょう。多くの皆様方のご来館を心よりお待ちしております。

ゆがふ館入館者数



～編集後記～

今回は、読書の秋ということで、ゆがふ館の蔵書をご紹介します。しかし、それにしても紹介したい図書は挙げたらキリがありません。『昭和の竹富』、『街道をゆく』、『石垣竹富郷友会創立40周年記念誌』、会誌『星砂の島』、『新里村遺跡発掘報告書』、絵本『星砂の話』、『磯の生き物』、『竹富方言辞典』。うーん、キリなし（ta）

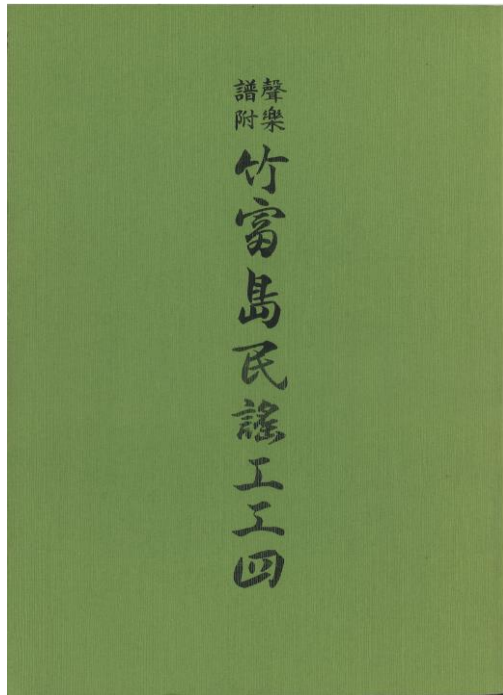
2022.11.15 No.70

発行：〈特〉たきどうん

Tel：0980-85-2488 Fax：0980-85-2489

『竹富島民謡工工四』

芸能の島として称えられる竹富島。竹富島の歌謡の工工四（三線の楽譜）もゆがふ館で閲覧することが出来ます。編者は竹富島ご出身の崎山三郎氏。竹富公民館からも認定されています。

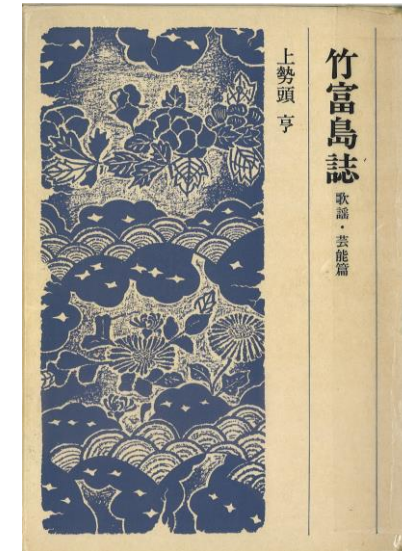


『沖縄のトンボ図鑑』

秋の訪れを知らせる代表的な昆虫といえば、トンボです。ゆがふ館でもお話をいただいた中村賢一さんをはじめ沖縄在住の研究家がトンボについて詳細に解説しています。ゆがふ館にはこうした生き物に関する蔵書も沢山あります。

『竹富島誌』（民話・民俗編／歌謡・芸能編）
上勢頭 亨 著

竹富島を知るうえで欠かすことのできない書籍が、上勢頭亨翁が著した『竹富島誌』です。竹富島の祭祀、伝承、風習、歌謡、芸能など、竹富島で語り継がれてきたその多くが凝縮されています。現在は、出版元である法政大学出版局へオンデマンド印刷で注文することが可能です。

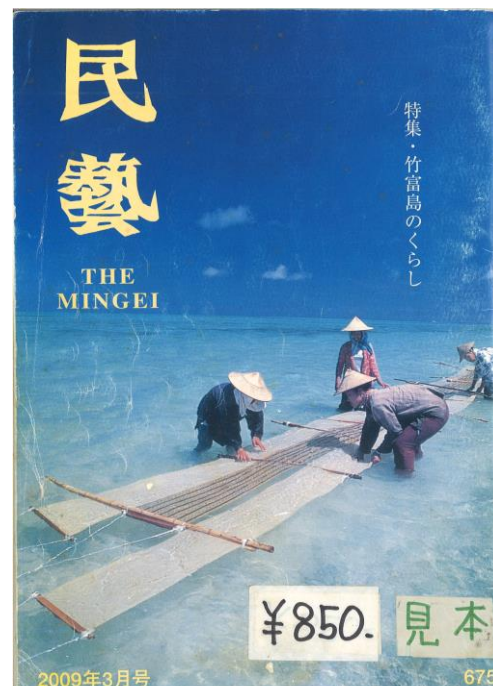
普請研究第22号『沖縄・竹富島の家造り』
普請帳研究会 編

竹富島の町並みに魅了されるのは、観光客ばかりではありません。伝統的家屋を修復する技術者、大工さんも家造りの技術力の高さに惚れ込んでいます。アナフヤー（掘立小屋）から貫屋へ発展し、さらにはカヤ葺きからカーラヤ（瓦屋）への変遷は、竹富島の先人が有した手わざの力量の高さでした。編集した普請帳研究会は、文化財建造物の修理技術者が集い、全国の建造物の職人技を記録する研究会で、第39号まで発刊しています。



月刊『民藝』

「民芸の島」とも称えられる竹富島。日本民藝協会の月刊誌で通巻839号（令和4年11月現在）を数える『民藝』もゆがふ館で687号から閲覧できます。また、最新号は購入することもできます。



『ふるさとへの想い竹富島』

前原基男さんの写真集をはじめ、沖縄を代表する写真家のひとりの大塚勝久さん、新進気鋭の写真家の西野嘉憲さんなど、沖縄関連の写真集も数多く収蔵しています。写真集を通じて、往古の沖縄や竹富島に触れる時間というもの、また心地よい過ごし方かもしれません。



ゆがふ館の蔵書

三年ぶりに奉納芸能が行われた種子取祭も無事に終え、ホッと一息している竹富島。停滞前線の影響で雨続きでしたが、晴れ間が見えると、秋の訪れが感じられるようになりました。そこで、今回は「読書の秋」ということで、ゆがふ館の蔵書をご紹介します。